



第Ⅱ部 浦安市の育てたい子ども像

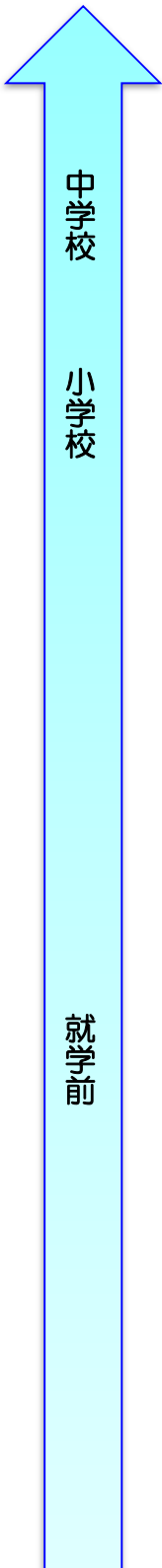
1 浦安市の育てたい子ども像

浦安市教育振興基本計画

<基本理念> 学び 育み 認め合い 『未来を創造する』人づくり

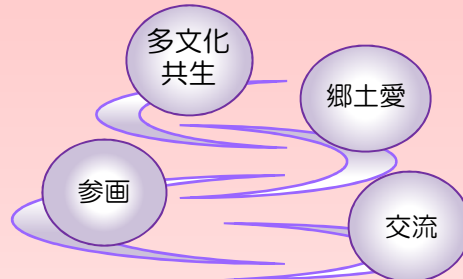
<基本目標> 自ら学び 自他を尊重する心と 新しい時代を切り拓き

しなやかに生きる力を育みます【学校教育】



学校・家庭・地域・行政が連携・協力し生涯にわたる学習の基礎を作るために 「浦安市学校教育推進計画」より

就学前の段階では、まず、身近な人に愛着をもち、信頼関係を築きながら、身近な環境に親しむ中で、3つの視点「主体的な学び」(知)、「自他を尊重する心」(徳)、「健やかな体」(体)を育みます。そして、それらが育まれていく中で「参画・交流・郷土愛・多文化共生」という意識が芽生えていくと捉えています。



学校・家庭・地域・行政が連携・協力し生涯にわたる学習の基礎を作るために

【浦安市学校教育推進計画における目指す子ども像】

浦安市学校教育推進計画では、4つの観点からなる「目指す子ども像」と、それぞれにつながる具体的な子どもの姿について次のとおり定めています。

<4つの観点>

目指す子ども像

・具体的な子どもの姿

主体的な学び (知)

自ら学び、身に付けた知識や技能を活用する子ども

- ・学ぶことの楽しさや喜びを実感し、自ら学び続けている。
- ・基礎的・基本的な知識や技能を身に付けている。
- ・学んだことを活用し、考え、判断し、表現している。
- ・自ら課題を見つけ、積極的、創造的に挑戦している。

自他を 尊重する心 (徳)

自分や他人のよさを認め、互いに尊重し合う子ども

- ・自分や他人のよさがわかり、他人を思いやる心を持っている。
- ・自他の違いを認め、生命や人権を尊重する心を持っている。
- ・美しいものや気高いものに感動する心を持っている。
- ・礼儀正しく、正義感や公正さを重んじて判断し、行動している。

健やかな体 (体)

命を大切にし、健康でたくましい子ども

- ・自他の命を大切にしている。
- ・望ましい生活習慣・食習慣を身に付けている。
- ・運動する楽しさや喜びを知り、親しんでいる。
- ・健康で安全に生きていくための知識や能力、実践力を身に付けている。

豊かなかかわり

(参画・交流・
郷土愛・
多文化共生)

適切に表現する力を身に付け、人や社会に積極的に関わるとともに、我が国やふるさと浦安に誇りを持ち、多様な文化を大切にする子ども

- ・適切に表現する力やコミュニケーション能力を身に付け、様々な人と積極的に交流している。
- ・社会の動きやあり方に関心を持ち、積極的に社会に関わり貢献しようとしている。
- ・人と協力して取り組む資質や能力を身に付けている。
- ・我が国や浦安の歴史・文化を理解し、誇りを持つとともに、地域社会の一員としての自覚を持っている。
- ・ふるさと浦安の未来や自己の生き方を考える力を身に付けている。
- ・外国などの多様な文化や習慣を理解し、尊重する態度を身に付けている。

【浦安市就学前「保育・教育」指針における育てたい子ども像】

本指針では、学校教育推進計画における目指す子ども像の実現に向けて、就学前における保育者が共有すべき4つの観点からなる「育てたい子ども像」と具体的な子どもの姿について、次のとおり決めました。

<4つの観点>

育てたい子ども像

・具体的な子どもの姿

主体的な学び
(知)

自分で考え行動する子ども

- ・好きなことややりたいことをみつけ、じっくりと取り組む。
- ・いろいろなことに興味や関心を持ち、感じたり、気づいたりする。
- ・考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすることを楽しむ。

自他を
尊重する心
(徳)

自分や人、ものを大切にできる子ども

- ・身近な人とともに過ごす楽しさを感じる。
- ・自分も相手も大切に思い、互いの良さを認め合う。
- ・自分の気持ちを調整し、折り合いをつけながら、気持ちよく生活する。

健やかな体
(体)

心と体を動かして夢中になれる子ども

- ・安定した生活の中で、思い切り体を動かし、のびのびと過ごす。
- ・何でもやってみようとし、諦めずに頑張る。
- ・遊びや生活に見通しをもって行動する。
- ・基本的な生活習慣の大切さがわかり、進んで取り組む。

豊かなかわり
(愛着・信頼関係・身近な環境への親しみ)

様々な人や事柄と出会う中で、心通わせ、成長する子ども

- ・身近な人や環境に親しみをもつ。
- ・地域の人や施設などを通じて、ふるさと浦安を感じる。
- ・一人一人が大切な存在であることを感じる。

2 発達の特徴と育ちの連続性

保育内容の中から、その時期の特徴的な姿を取り上げたものです。

心が育つ・体が育つ

- 動く
全身運動
手指の運動
生活習慣
- 出会う
自己の発見
対人関係
- 伝える
ことば
- 感じる
表現
- わかる
も の 環 境

0歳児

- 首のすわり、寝返り、おすわり、はいはい、つかまり立ち、伝い歩き
- 手、指に触れたものを握る
- 指先で物をつまむ
- 食事、睡眠、遊びのリズムが安定してくる
- ぐずったり泣いたりして、眠り、空腹、排泄など、生理的欲求を伝える

- 親しみをもっている人を目で追う
- あやすと笑い、語りかけに喃語やしぐさで応答する
- 特定の大人との愛着関係が育まれ、人見知りをする



- 「うーうー」「ウククンウククン」など、口を動かして声を出すことを楽しむ
- 「マンマン」「ダダダダ」などのようにまとまりのある音声を発する
- 「マンマ」「ワンワン」など、音声と対象が結びつく

- 快、不快を笑ったり泣いたりすることで表現する
- 身振り手振りで感情表現をする



- 音のするものに興味を示す
- 人や物など、動くものを目で追う
- 身の回りのものに手を伸ばし、触れたりなめたりする

1歳児

- 歩行し始める
- 手で投げる、足で蹴るなどの動きが可能になる
- 立ったり座ったり自由に体勢を変えることができる
- 指先が自由に動かせるようになり、つまむ、たたく、引っ張る、ちぎるができるようになる
- 身の回りのことを自分でしてみたいという気持ちが出てくる

- 自己主張が始まる
- 身近な人に興味や関心をもち、関わろうとする
- 身近な人と同じことをして喜ぶ
- 自分の思いを指さし、身振りなどで伝えようとする

- 単語や「ワンワンねんね」などの二語文を話す
- 「これなあに」と繰り返し聞く



- クレヨンなどで、なぐり描きをする
- 歌や曲を聴いて、気に入った場面を声や体の動きで表現する

- ボールを転がしたり、投げたり、捨ったりすることを楽しむ
- 積木を並べたり、積んだり、崩したりする
- 水、砂、落ち葉、布など、身近なものに触れ、感触を楽しむ

2歳児

- 小走り、跳ぶ、登り降り、押す、引くなど、体のバランスを保ちながら動く
- 地面に両手をつき片足を上げたり股覗きをしたりする
- 指先に力が入り、押さえたり、引っ張ったり、ねじったりする
- スプーン、フォークを使って食事をする
- ボタンをかけるなど、技術を要することに挑戦する
- 大人に手助けされながら、着脱、排泄を自分でしようとする

- 自己主張が強くなる
- 一方的な指示に「やだ」と言い、「じぶんでじぶんで」と言う
- 自分と相手との関係の強弱が分かる
- 男の子と女の子の違いに興味を示し、相手の性別も分かり始める
- 自分の思いを受け止めてもらうことを喜ぶ

- 「いや」「もっと」「どうして」「なんで」など、自分の気持ちを表現する
- したいこと、してほしいことを身近な相手に簡単な言葉で伝える

- クレヨンでぐるぐる描きをしたり、同じ形のものを次々と描いたりして、意味をつけ始める
- 「～のつもり」と意図をもって動いたり、描いたものを「～みたい」と見立てたりし始める



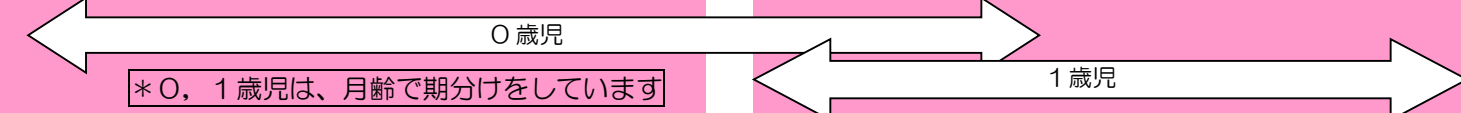
- 積木を動かして「バス」と言うなど、物や行為そのものからイメージを広げる
- 身近にある物を見たとて走らせるなど、見立て、つもり遊びをする
- 形、大小、色などに関心をもつ

保育・教育課程との
リンク（関連）

- 0歳児の保育内容
- I 誕生の頃（～56日）
 - II ねんねの頃（～3ヶ月）
 - III 首がすわる頃（3か月～）
 - IV おすわりの頃（6ヶ月～）
 - V はいはいの頃（9か月～）

- 0～1歳児の保育内容
- I 1歳～1歳6ヶ月未満
 - II 1歳6ヶ月～2歳未満
- 1歳児の保育内容
- III 2歳～2歳6か月未満
 - IV 2歳6か月～3歳未満

- 2歳児の保育内容
- I 4月～6月上旬
 - II 6月上旬～9月上旬
 - III 9月上旬～12月
 - IV 1月～3月



*0, 1歳児は、月齢で期分けをしています

3歳児

- 自分の体の動きをコントロールする
鉄棒にぶらさがったり、ジャングルジムを登ったりするようになる
両手に持ったボールを頭上から投げる
- 簡単な折り紙を折る
- 食事、排泄、衣服の着脱など、自分からしようとし、できることで自信につながる

- 自分の思い通りにしたがる
- 友達に興味や関心を示す
- 自分の好きな遊びの場にいる友達と関わって遊ぶ
- 簡単なルールのある遊びを身近な大人と楽しむ
- できたことを褒められて喜ぶ

- 「おはよう」「ありがとう」など、人と関わるあいさつの言葉を自分から使うようになる
- 「なぜ」「どうして」といった質問を盛んにするようになる
- 思いのままに感じたことを言う

- 少しずつ形のある絵を描く
- 「顔」から手足が出て、「頭足人」の絵を描き始める
- 自分なりに感じたことや思ったことを表現して遊ぶ

- 身近な素材や用具を使って、自由に描いたり作ったりすることを楽しむ
- 身近な物の大小、色、形、多い、少ないなどの違いに気付く



3歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月中旬
- IV 10月中旬～12月
- V 1月～3月

4歳児

- ケンケン、スキップをする
- 両手を別々に用いて一つのことをする
はさみを使い、紙に描かれた線に沿って切る
茶碗に手を添え、箸を使って食事をする
- 衣服の着脱やささまざまな身の回りのことを順序だててやろうとする

- 身近な人の気持ちを察し、少しずつ自分の気持ちをコントロールできるようになる
- 一緒に遊びたい友達ができ、自分から関わっていく
- 「貸し借り」「順番」「交代」が見られるようになる
- 人の求めていること、好きなことが分かって、一緒にしようとする

- 「ぼく」「わたし」を代名詞として使える
- 「だって」を使い、はっきりと自分の理由をもった主張になる
- ふざけて乱暴な言葉やきたない言葉を使うことが楽しくなる



- 天地（太陽や地面）のある絵を描くようになる
- 自分なりのイメージをもち、遊びの場を作ったり見立てたりして遊ぶ

- 身近な素材を使って、遊びに必要な物を作る
- 生活の中で必要に応じて数を数えたり、量の大小を比べたりする
- 身近な自然環境に興味を示し、関わろうとする
(水、砂、土、草花、虫、樹木)

4歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月中旬
- IV 10月中旬～12月
- V 1月～3月

5歳児

- 上手投げでボールを投げる
- 小さな物をつまむ、紐を結ぶ、雑巾を絞るといった動作ができるようになる
- 安全に気を付けて遊具や用具を使う
- 一日の予定を理解することができる

- 約束を守ろうとしたり、相手の気持ちを察したりすることができ始める
- 役割分担や協力してやり遂げる喜びを感じる
- 互いの思いを言い合える友達関係がもてるようになる
- 周囲の状況に目を向け、自分の行動を考えられるようになる
- 自己肯定感をもつ

- 文字を読んだり書いたり、数を数えたりすることに興味をもつ
- 体験したり感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ
- 相手に分かるように話す

- 全身画を描くようになる
- イメージをもちながら、作ったり描いたりすることができる
- 曲の雰囲気を感じながら歌ったり、友達と気持ちを合わせて歌ったりする



- いろいろな材料を使って、自分なりに工夫して表現する
- 左右対称、上下対象、配色を意識して作る
- 生活の中で、数量、図形、文字、時間に関心をもつ
- 身近な動植物に興味や関心をもつ

5歳児の保育内容

- I 4月～6月上旬
- II 6月上旬～9月中旬
- III 9月中旬～10月下旬
- IV 10月下旬～12月
- V 1月～3月

小学校就学期

- ルールのあるゲームの中で、素早く動いたり止まったりすることができる
- いろいろな運動が巧みになる
跳び箱の開脚跳び
ボールをつきながら走る、蹴る、キャッチする

- 見通しをもって段取りを立てる力が付いてくる
- 社会の規範意識が身に付き、行動する
公共のマナー、交通ルール
- 自己を客観視し、多面的な見方ができる
- 互いに教え合い、助け合う力が付いてくる
- 子ども同士でルールに基づく役割交代、勝ち負けのチーム遊びを楽しむことができる
- 自分の主張を一步譲って、仲間と協調したり意見を調整したりする

- 目の前にいない人にも気持ちを伝えようと「書きことば」を身に付け、使い始める
- 自作のストーリーを作って演じる
- 経験したことや考えたことを話し、伝え合うことができる

- 自分のイメージしたように描いたり、細かな制作をしたりする
- 完成をイメージしながら作り上げる
- 歌詞の意味を理解しながら、声をそろえて歌う

- 自分のイメージしたことを、いろいろな素材や用具を選んで描いたり作ったりする
- 文字や数を使った遊びを繰り返し楽しみ、自分達の遊びや生活に取り入れていく
- 身近な動植物の世話をすることで、その成長や生態に興味や関心をもつ

* 保育園・幼稚園・認定こども園と小学校の連携

保育園や幼稚園・認定こども園での遊びを通じた学びが、小学校の学習につながることを図式化して紹介しています。